

2024年度 学校法人 三幸学園 東京未来大学福祉保育専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 末安由香

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 松縄和彦

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、福祉保育分野の学校として「福祉・保育現場に貢献することで、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、福祉保育分野として「豊かな人間と確かな技術で、関わる人に、幸せや希望を提供できる人」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

●「誇り」を持てる学校運営

生徒が「学ぶ」楽しさ、「成長する」楽しさを感じ、先生との信頼関係を築くことができることを目指し、日々の授業・生徒対応に取り組む。その結果、2024年度学校生活アンケートでは、「(後輩に相談されたら)入学を勧めるか」の項目では、NPSスコアが介護福祉科は0、保育科は-5.15であった。介護福祉科・保育科ともに姉妹校の中では、全国2位という結果であった。また、「在学期間中に成長できたか」という項目においては、介護福祉科3.71、保育科3.63と、ともに姉妹校平均を上回る結果となった。また、先生との信頼関係の目安として、「先生から熱意・愛情を感じる」という項目においては、介護福祉科3.67、保育科3.60とこちらも高い結果を残すことができた。

●専門教育の充実とより魅力的な授業展開

担当授業のブラッシュアップ、産学連携や国家試験合格率アップを目標に掲げ取り組む。

こちらも生徒からの授業アンケートでは、「授業は満足できたか」という問いに対して、介護福祉科3.74、保育科3.61と、目標としていた3.8には届かず、次年度にむけて課題の残る結果となった。

また、介護福祉科国家試験合格率については、2023年度の実績からは上回ることができ、89%という結果であった。昨年度は留学生の合格率に課題があったが、その点が大幅に改善された。

●教務力、生徒指導力アップ

教職員の統一した指導、生徒の主体性を育む仕組み作り、生徒の小さな変化に気づき早期に対応をしていくことを目標に掲げ取り組む。「情報伝達の満足度(タイミング・内容)」は介護福祉科3.54、保育科3.38、「規律が保たれている」介護福祉科3.56、保育科3.11と、学科間で差が開く結果となった。2025年度にむけて、全教職員で取り組みを強化する必要がある。加えて、「主体性を身に付けた」という問いについては、介護福祉科3.13、保育

科 3.10 と昨年度よりも数値が下がっている。(2023 年度介護福祉科 3.19、保育科 3.25) 今後、変化の激しい社会の中で、より主体性の力は求められてくるため、先ほどの「規律」同様、取り組みの強化が必要である。

●体系的な就職指導

2024 年度卒業生アンケートにおける「就職指導は十分だった」という問いについて、介護福祉科 3.60、保育科 3.11 となり、こちらも学科間での差が開いている。これをうけて、2025 年度は、すべての指導スケジュールを前倒し、企業・園・施設様を学校にお招きする機会も大幅に増やす計画としている。

② 学校関係者評価委員会コメント

・学校生活の中で身に付けたマナー等が今とても活かしている。中でも挨拶は社会に出てすぐに活かすことができ、初対面で挨拶をしたことがきっかけで自分とは異なる役割を担う方とも継続的に良い関係を築くことができている。入学後、始めに挨拶の大切さを学び、挨拶がきっかけで他学科との関わりも広がり、その経験が今の現場でも活かしている。(萬崎委員：介護福祉科について)

・1 年生で実施されるスタートアッププログラムにて挨拶をはじめ、授業前の行動・時間の管理等、正しいやり方を始めに学び、2 年間継続したことで当たり前の行動を当たり前に行えるようになった。

行事では、経験者が多くいる中リーダーなんてできないと思っていたが、先生から「こんなところが向いていると思うよ」と後押しをしてもらえたことで、「自分がやっても良いのだ」と思うことができ、実際にリーダーをしたことにより自信を持てた。更に他の行事でも自分のやりたいことが明確になり挑戦できた。行事の経験により、今も自分に自信を持つことができている。(山下委員：保育科・こども総合学科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

留学生やリカレント教育(委託訓練生)の対応について、日々工夫をしながら取り組んではいるが、常に試行錯誤をしながら取り組んではいるものの、「確立」までは工夫の余地がある。また、昨今生徒の家庭環境も多様化・複雑化する中で、それぞれの生徒に合わせた対応がさらに求められてきている。

② 今後の改善方策

昨年度に引き続き、心の問題を抱えている生徒に対して、スクールカウンセラーの促しに加えスクールソーシャルワーカーの活用も視野にいれ、生徒たちの心理的安全性の向上を図る。

留学生への教育については、自校だけでは限界もあるため、姉妹校である日本語学校や専門性の高い教職員の知見も活用しながら、一定の枠組みを作り上げていきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高等学校では専門学校よりも保護者との連携を密に取っている。また、児童相談所や中学との連携や引継ぎもある。保護者連絡の頻度は生徒にもよるが月 1 度は連絡を取っている。連絡がつかない場合は、生徒経由で時間帯を確認したり、来校していただいたり、その他メール等、様々なツールを使用し連絡を取るようになっている。専門学校へ進学した後も出身高校として連携を取っていきたい。(有山委員:全学科について)

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

情報システム化は進んでいるものの、業務の効率化についてはまだ課題が残る。生徒への連絡事項や授業内資料などは Google クラウドや LMS を活用し、今後の活用方法をさらに検討したい。また、特に授業データの蓄積においても課題がある。

② 今後の改善方策

多くの教員が時間を割いている授業準備の時間を削減するための施策が必要だと思われる。全国に姉妹校がある強みを利用し、パワーポイント資料のデータ蓄積等を進めていきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・最近の実習生は PC で指導案等を作成している学生が多い。見ていると効率も良さそうだと感じる。PC で入力をし、プリントアウトして紙面で提出。園側はこれまで通り手書きで赤入れをする。学生は PC で修正する為、とてもスムーズにやりとりができているように感じる。保護者との連絡手段もほとんどがアプリ上となっている。手紙も手書きは一切していない。現場でも ICT 化は進んでいる。しかし、ICT 化が進むことで気持ちのやりとりが失われないよう対面でのやりとりも大事にしている。(竹田委員:保育科・こども総合学科について)

・現場でも記録・見守りはICT化で効率的に業務が進むようになっている。また、AIを利用し、会議議事録なども作成時間を削減している。介護業務以外の業務はどうしても残業となってしまうていたが、ICT化が進むことにより業務の効率化が図れている。ご利用者様ご家族とのやりとりもアプリが多くなっている。実習生の記録はまだほとんどが紙面でのやりとりとなっている。PCで作成している学生は入力後、紙面で提出をしている。(松縄委員:介護福祉科について)

・ICT機器は得意不得意がある為、入力が早い人、手書きが早い人がいると思う。手書きが当たり前だと思っていたが、本日の話を伺いICT化により効率的に進められるのかと感じた。(山下委員:保育科・こども総合学科について)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・時代の流れに応じてタブレット端末やスマートフォンを使用しているが、保育科を含めた学校全体への普及や使用方法などの確立が難しい
- ・先端的な知識を学ぶ機会を全員には与えられていない
- ・情報伝達や授業連絡にホームルームを介することが多く、伝達にタイムラグが生じがちになっていた

② 今後の改善方策

- ・タブレット端末に限らず、授業内で現場の実情に即した ICT 教育を取り入れていく
- ・教員研修の機会を積極的に周知・実施
- ・情報伝達・授業ツールの棲み分けと見直しを図り、タイムリーな情報を得られやすくしていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高等学校でも Google クラウドルームや Sanko Gate(学園内 LMS)を利用しているが課題もある。すぐに発信することができるが、誤った情報を挙げてしまったときに修正することが大変。誤りに気がつくことが遅かった際、更に修正することに時間がかかってしまう。正しい情報とスピーディーに発信する為のフローを検討している。

(有山委員:全学科について)

・東京未来大学福祉保育専門学校の学生は他学校の学生と比較し、実習後 3~4 日経つとその学生らしさが出てくるのが良いところだと思う。課題は子どもが表現することを想像する力はあるが、なぜその表現に至ったか等を言葉にすることが苦手である。文章としてまとめることは苦手だが、話す理解しているという学生が多い。また、現場職員から実習生に対する対応では「指導をする」という上下関係にあってはいけないと伝えられている。「人としてどうか」を見るよう職員に伝えている。実習生の受け入れ体制を見直したいと考え、この考えに至った。(竹田委員:保育科・こども総合学科について)

・東京未来大学福祉保育専門学校の学生は他学校と比較すると挨拶が抜群に良い。挨拶から始まる姿勢がしっかりできている。課題点は消極的な姿勢の学生が多いこと。現場で学べるというまたない機会なので積極的に学びにきてほしいが、この点については実習受け入れ側の課題でもあると思っている。伝えるべき知識や技術を伝えるのは実習生・施設側、どちらからのアクションでも良いと考え、現場職員と実習生との距離感のバランスが大事だと思っている。相手を尊重する姿勢を大事にしつつ、指導者側からも歩み寄りが必要だと思う。(松縄委員:介護福祉科について)

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

保 育 科:1年以内での早期離職者が全体の3割ほどおり、高止まりしている現状がある

介護福祉科:卒業後のキャリア形成が追えていない

② 今後の改善方策

保 育 科:在学中に実施できる対策の検討

卒業後に園や卒業生とのつながりの中でとれる施策を今後検討する

介護福祉科:就職先との関係性構築と、実習関連施設への就職率上昇を目指し、

卒業後のキャリアを把握する

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・介護福祉科の退学率が各段に下がっているが、何か対策をした結果なのか。(松縄委員:介護福祉科について)
 ⇒モチベーションが下がるような発言等、早期に学生の変化に気づき、教員からのフォローを行っている。また、金銭面を理由に退学希望が挙げた場合には学科教員全員が奨学金等の支援について案内をできるようになっている。(塩田さんより回答)

・変化に早く気付いて早期にフォローするということを学校全体でできていることは素晴らしいことだと思う。(松縄委員:介護福祉科について)

・高等学校では登校スタイルを変更することができる為、多くの選択肢を提示することができる。また、通信制で欠席の概念がない為、登校が難しい状況の学生を無理に登校はさせていない。あえてリフレッシュできる時間を与えている。また、終業式の日卒業生講演会を設け、在校生が卒業後のイメージを想像できるよう、目標喪失につながらないように対策をしている。(有山委員:全学科について)

・早期離職に至る理由は、保護者対応や職員間の関係づくりなど、学校で教わる機会が少ないことに直面することが多いのではないかと。未然に防ぐために、園での1日の流れを動画撮影しイメージできるように見せるのはどうか。実際に新人職員を現場で見ている早期離職してしまう方は、保護者とうまくいかなかったことを原因とするケースが多い。繊細な学生が多い為、自分に非があるように受け取ってしまう傾向にある。入職から日が浅く、職員との関係性も築けていない為、アドバイスをもらっても素直に受け取れないことが多い。(竹田委員:保育科・こども総合学科について)

・キャリア形成のイメージを持っていない人は入職後にギャップを感じ早期離職してしまう。チームワークで行う仕事の為、人間関係が原因になることもある。(松縄委員:介護福祉科について)

・何が分からないかも分からないということや、人間関係を理由に離職している人もいる。職員の年齢層も幅広く、自ら聞くことができず、コミュニケーションも取れないまま離職してしまう人、学校で勉強した内容と現場のギャップに耐えられず離職してしまう人もいる。私自身、実習中に先生が来るととても安心した経験から、就職後も実習中のようにしばらくサポートを受けられたら安心ではないか。電話で話すだけでも安心感を得られると思う。(萬崎委員:介護福祉科について)

・人間関係や持ち帰り仕事の多さを理由に離職している人がいる。就職活動をする際、園探しの段階から求人票や園見学では分からない部分を知ることができたら早期離職は防げるのではないかと。園見学だけでは分からない部分があるため、教員や実習生の情報をもっと事前に収集できたら良いと思う。(山下委員:保育科・こども総合学科について)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

保育:能力や精神面においてより支援が必要な学生に対し早い段階でのサポートが必要

介護:スポンサー(就職先企業から修学資金サポートを受けられる制度)対象外の留学生に対する就職体制の強化と、国試合格が難しい一定数の学生への早期介入

② 今後の改善方策

保育:必要に応じて入学前の保護者面談等を実施、早期に学校での様子を開示し理解を図る

介護:留学生のみの就職指導の検討・国試対策に向けて教科担当および保護者との連携強化
姉妹校からの対策事例を共有してもらい、ブラッシュアップを図る

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・在学中、挨拶をはじめ、社会人としてのマナーを一から学べたことはとても役立っている。また、授業もいきなり人前で発表することはなく、ペアワーク、グループワーク、全体の前で発表などステップアップ式の展開で、自信がない学生も自信に繋がったと思う。日々の日誌や指導案など、記録の大変さを就職後に実感したので、在学中にもっと多く教えてもらえたら良かった。(山下委員:保育科・こども総合学科について)

・誰にでもチャンスを与えてくれるところがとても良い学校だと思う。そのおかげで自分自身成長に繋がった。接遇面の対応をもっと在学中に学びたかった。そうすることで早期離職も防げると思う。(萬崎委員:介護福祉科について)

・介護の現場は役割分担が明確だったが、働き手不足もあり最近では役割をフォローし合うようになってきている。現場でも横の繋がりを持ちフォローし合う為、既に全て取り入れていただいているが、接遇面も授業内でさらに取り入れてもらえると現場でも少し変わってくるのかと思う。(松縄委員:介護福祉科について)

・日誌の指導は十分すぎるくらいに授業で実施をしていただいていると感じている。電話対応については、話したいことがあるときに電話をする為、電話対応の練習の仕方はテーマを設定して練習する等の取り組み方法が良いのではないかと思う。現場では1年目については、話す前に何を話すか上長が確認し電話をしており、2年目からは1人で対応している。(竹田委員:保育科・こども総合学科について)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

学外実習時における生徒の体調不良などによる途中中止、延期(補填)者が一定数いる

② 今後の改善方策

学内での事前実習指導の強化

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・実習生を守る為に、国から発信があったパワハラ防止についての文書を送る学校があった。改めて実習生の接し方について気を付けなければと思う出来事だった。人格を否定するような指導は実習生でもあってはならない。事前指導は十分すぎるほど学校で実施していると思う。また、行事でも自分を出すチャンスがたくさんあるのがとても良いと思う。(竹田委員:保育科・こども総合学科について)

・体調不良で休むことは仕方がないが、別の理由の場合は直接しっかりやりとりをしたい。変則的な動きがあると、いつも通りにはいかななくなることもある。慣れるまでは大変だが、そこを伝えてほしい。(松縄委員:介護福祉科について)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・留学生の入学志願者が大幅に増加したが、学費の支払いが難しい等の理由で合格後辞退も多かった
- ・委託訓練生の希望者の減少

② 今後の改善方策

- ・留学生に対し、求める日本語能力基準を明確にし、入学前手続きの時点でも意思疎通を図りやすくすることで辞退者防止に繋げていく
- ・DM・メール等に加えハローワーク訪問などを実施し、委託訓練生の認知拡大に努めていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・ぼけっとランド綾瀬での保育ボランティアに向けて話し合いを重ねたが、保育園として受け入れ可能な時間帯と、学校の授業時間等の調整が難しく、実現には至らなかった

② 今後の改善方策

・ボランティアに出向くだけにこだわらず、園児を招いてのイベント開催や、学生主体で行う発表会等を通して地域との連携を深めると共に、学生の学びをアウトプットできる場を創成していく

③ 特記事項

- ・(保育科)地域の保育園等にイベントのご案内を配布することで、地域の親子対象に月一回開催しているみらいキッズへの動員が大幅に増えた
- ・(保育科)近隣の保育園の園児を招いて、ハロウィンイベントやお店屋さんごっこ、子どもたちと一緒に奏でる音楽会などを開催した
- ・(キャリアデザイン総合科)授業の中で高齢者施設や保育園でのボランティアの他、地域のごみ拾い等を行い、社会貢献を行った
- ・(介護福祉科)チャレンジヨガの継続、葛飾ろう学校との連携、介護施設や老人福祉施設へのボランティア活動を通して、学生の地域・社会貢献活動を支援
- ・(職業訓練)東京都の委託を受けて保育科・介護福祉科において職業訓練を実施。2024年度は中途退校 0、資格取得 100%、就職率 100%(東京都の就職基準には満たない方もいますが、ご本人の希望する就職としての就職率を記載)
- ・(地域貢献)足立区関連(地域)へ施設貸し出しを行った

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受入れに伴う戦略的な国際交流は、専門の部署に力をかりて実施をしていく。

学内での適切な体制において、介護福祉科の教育課程内には日本語力をサポートする教科は編成されていないため、カリキュラム外でのサポートを実施しているが、十分とはいえず、国家試験までを考えると課題が残る

② 今後の改善方策

入学時の日本語能力の見極めの強化と日本語能力フォローの強化

また、講義だけでなく実技授業においても、習熟レベル別にグループを設定する

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について、学校関係者評価委員からは概ね適切であるとの評価をいただいた。

実習指導や就職指導、授業の内容はとても良い内容との意見をいただくことができた。

しかし、近年在校生の層が多種多様になっており、一人一人に合った指導がより一層重要となっている為、実習・就職の指導についても、早期離職を防げるような施策を検討していく。尚、留学生については語学力のレベルに合わせた個別指導を取り入れることで、早期就職決定や国家試験の合格を目指す。

また、現場においても ICT 化が進んでいる為、在学中から多く触れることで就職後も効率的に動けるよう、引き続き授業内他、学内伝達等でも取り入れていく。

姉妹校と比較しても退学率は低く、また昨年度は大幅に低下させることができた為、引き続き学校全体で、学生の変化を早期に感知し、早期サポートを徹底していく。